令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　　【松江市立 第四中学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○前後のつながりを意識して表現を工夫した言葉を考える設問については、他の問題と比較して正答率が高かった。	・自分の考えを文章にして書く課題を提示し、最後まで書くことを目指して取り組むように指導する。 ・手書きによる作文やノート整理、書き取りテスト等、適切な漢字を考えて書く機会を増やす。
	課題	●記述式の問題の無回答率が高いため、粘り強く書くことに課題があると考えられる。 ●適切な漢字を選択することはできるが、書くことが苦手な傾向にある。	
数学	成果	○数と式の領域の知識・技能を問う設問の正答率は高く、基礎的な計算力は定着していると考えられる。	・説明問題対策のために、言語活動の充実を図る。定期的にペアやグループで説明し合う活動を授業に取り入れる。 ・長文問題対策のために、問題文を繰り返し読んだり、数量関係を図や表などにまとめる活動を多く取り入れたりする。
	課題	●「説明」を答える問題の無回答率が高いため、定型ではない文章で答える能力が不足していると考えられる。 ●問題文が長いと正答率が低くなる傾向がある。	
英語(成果または課題で話すことについて触れること)	成果	○基礎的な問題は既習事項を用いて解いている。 ○英文を読んで概要をとらえる力が付いてきている。 ○定着させた文型を用いて書くこと話すことに活用する力がある。	・定型文を繰り返し読み、書くことで定着を目指す。 ・スモールトークで目的、場面、状況に応じた英文が言えたり書けたりするような練習を繰り返す。
	課題	●「書く」問題の回答率が低く、基本的な語彙が不足している。 ●構文力に課題があり、特にまとまった英文を書く問題の正答率が低い。 ●「話す」問題の無回答率が高い。	

(2)質問紙調査から見られた傾向

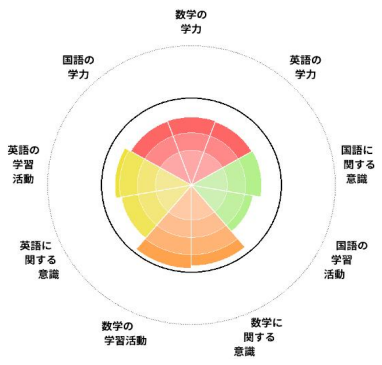
		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○基本的な生活(朝食・就寝や起床時刻)への意識は比較的高い。 ○学習が将来役に立つと感じている生徒は比較的多い傾向。 ○教科について「得意だ」「内容がわかっている」と前向きな評価が高い傾向。	・行事や日常の当番活動、委員会活動を通して生徒の自己有用感を育む。 ・家庭や地域と連携し、学習時間やメディア接触の時間を生徒がコントロールできるような手立てを講じる。 ・基礎基本の定着を図り、表現活動や既得事項を活用するような授業を展開する。
	課題	●学校が「楽しくない」「認めてくれない」、自分に「自信がない」が極めて高い。 ●勉強時間の少なさ、スマホに触れる時間の長さは際立って高い。 ●授業において「聴く」「表現する」「活用する」活動が極めて少ない。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

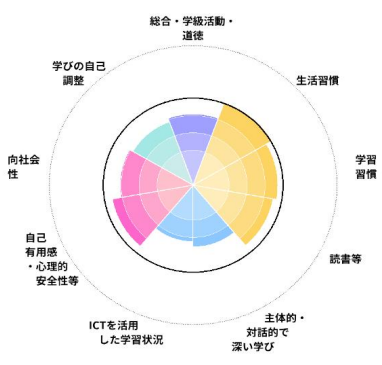
学校全体	・校内で設定した「学習のきまり」、「授業のきまり」を生徒も授業者も守る。 ・基礎基本が定着する授業を提供する。 ・係、当番、学習活動において、自分で最後までやり通すことを徹底する。そのために失敗し、それを修正する時間を保障する。 ・話を最後まで聞く力、適切な言葉づかいや表現で伝える力を育て、対話的で深い学びができる集団をつくっていく。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)

［教科を中心とした学力・学習状況］



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］



【受検者数】

172 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

